

『仙台市のコンテストで航和の考案した遠距離介護支援システム「keeper」が受賞！』

2019年2月20日(水)、宮城県仙台市で行われた「Life-tech innovation sendai」のピッチコンテストで、株式会社航和の代表取締役・佐々木航が新事業となる遠距離介護支援システム「keeper」の発表をしてきました。

「Life-tech innovation sendai(<https://lifetech-sendai.jp/>)」とは、仙台市が抱えている様々な課題を解決するためにICT(情報通信技術)を用いたアイデアを企業や団体から募集し、その実用化に向けた支援を行っていくプロジェクトのことです。この度行われたピッチコンテストには、6つのチームが参加。航和チームが考案したシステムは、遠く離れて暮らす家族のもとに介護サービスを提供する人材を派遣できる遠距離介護システム「keeper」です。進む高齢化、増える介護ニーズ……介護は何よりも身近な課題の一つです。もしも、ある日突然、遠く離れて暮らす貴方の両親が倒れたらどうしますか。そんな時、遠距離介護システム「keeper」があれば、離れて暮らす貴方の両親へ近くにいる人材が直接介護サービスを提供することができます。この介護システムがあれば、より手軽に介護サービスを活用することができるでしょう。



そして、ピッチコンテストの結果、遠距離介護システム「keeper」はコンテストの優勝に値する life-tech innovation 賞を受賞し、仙台市からの支援を頂くことに決まりました。今後は、遠距離介護支援システム「keeper」の開発を仙台市と共に進めていくことになります。

(株式会社航和 広報担当)